

褥瘡発生率

QI 項目の解説

入院されている患者さんのうち、新規に褥瘡が発生した割合を示しています。褥瘡とは、寝たきりなどによる体重で圧迫される場所の血流が悪くなったりすることで、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができたりしてしまうことです。一般的には「床ずれ」ともいわれています。褥瘡発生率は、看護ケアの質評価の重要な指標の1つになっています。本指標では、より低い値が望ましいとされています。

〈Depth（深さ）〉

d0：皮膚損傷なし・発赤なし d1：持続する発赤 d2：真皮までの損傷
D3：皮下組織までの損傷 D4：皮下組織を超える損傷 D5：関節腔、体腔に至る損傷
DU：深さ判定が不能の場合

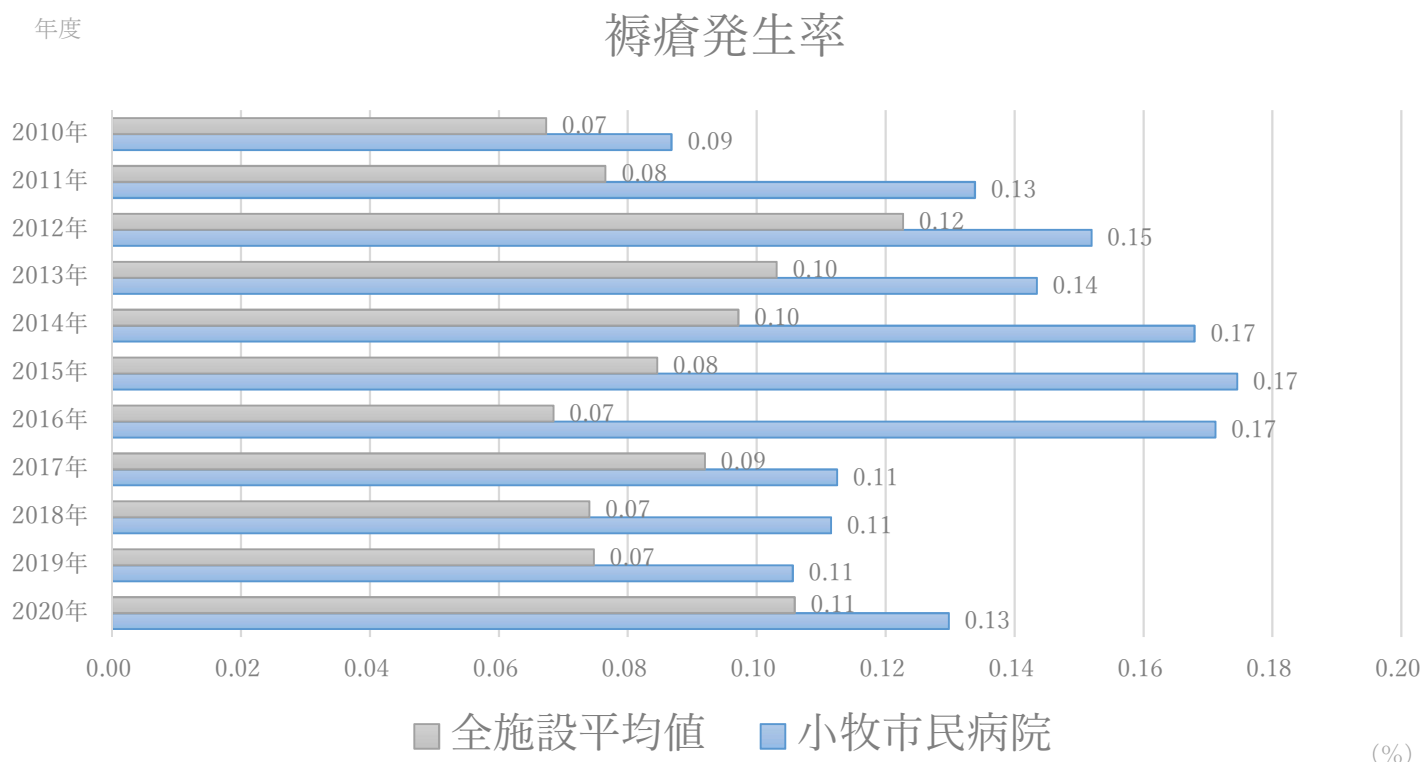
褥瘡発生率割合

QI 指標の定義・計測方法

分子：調査機関における分母対象患者のうち、
d 2 以上の褥瘡の院内新規発生患者数

×100【%】

分母：入院延べ患者数



2020 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

19の受け入れ病院であったため、入院数である分母の減少にて発生率の上昇に繋がったと思われます。

2020 当院データと 2018 当院データとの比較・原因分析

発生数は昨年と変わらず同等であるが、発生率の上昇を認めるため、分母の減少が関与していることを示唆します。

数値改善に向けた今後の取り組み

超高齢社会であり、患者の重症度が増している状況です。特に当院においては、夏と冬の時期に重症度が増すため、エアマットやポジショニングクッション不足となっている現状があり、極力充足できるよう検討していきます。

2019 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

年々、重症度や低栄養状態にある患者が増す中で、発生数は維持できており、現状の予防対策の実施は有効であると考えます。今後も啓発に努めます。